

Cisco Prime Network Registrar 10.1 リリース ノート

初版 : 2019 年 12 月 16 日

このドキュメントでは、Cisco Prime Network Registrar 10.1 の新機能および変更された機能の概要と、既知の問題に関する情報へのアクセス方法について説明します。



(注) 最新の Cisco Prime Network Registrar ドキュメンテーション (これらのリリースノートを含む) には、次の Web サイトからアクセスできます。

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/cloud-systems-management/prime-network-registrar/tsd-products-support-series-home.html>

このガイドは、次のセクションから構成されています。

- [はじめに \(1 ページ\)](#)
- [はじめる前に \(2 ページ\)](#)
- [ライセンス \(3 ページ\)](#)
- [相互運用性 \(3 ページ\)](#)
- [新機能および拡張 \(4 ページ\)](#)
- [コマンドラインインターフェイスの機能強化 \(6 ページ\)](#)
- [SDK の互換性に関する考慮事項 \(8 ページ\)](#)
- [Cisco Prime Network Registrar のバグ \(8 ページ\)](#)
- [特記事項 \(11 ページ\)](#)
- [関連資料 \(13 ページ\)](#)
- [Cisco Prime Network Registrar 10.1 のアクセシビリティ機能 \(13 ページ\)](#)

はじめに

Cisco Prime Network Registrar は、次のコンポーネントで構成されています。

- 権威あるドメイン ネーム システム (DNS) プロトコル サービス
- DNS キャッシュ サービス

- Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) サービス

シスコでは、これらのコンポーネントを個別にライセンスされたアプリケーションとして、またはスイートの組み合わせで提供しています。

はじめる前に

Cisco Prime Network Registrar 10.1 をインストールする前に、システム要件と *Cisco Prime Network Registrar 10.1* インストール ガイド で入手可能なライセンス情報を確認してください。



- (注) Cisco Prime Network Registrar の以前のバージョンから Cisco Prime Network Registrar 10.1 に移行する場合は、その前後にリリースされたバージョンのリリースノートを確認し、すべての変更点について完全に理解する必要があります。

Cisco Prime Network Registrar DHCP、権威 DNS、および DNS のキャッシングの各コンポーネントは、Cisco Prime Network Registrar リージョン サーバからライセンスおよび管理されます。ローカル クラスタ内のすべてのサービスは、リージョン クラスタを介してライセンスされません。リージョンでのインストールにのみライセンス ファイルが必要で、リージョン サーバのみが新しいライセンス ファイルを受け入れます。次に、リージョン サーバは、使用可能なライセンスに基づいて個々のローカル クラスタを承認できます。



- (注) Cisco Prime Network Registrar 9.x 以前のライセンスは、Cisco Prime Network Registrar 10.x では無効です。Cisco Prime Network Registrar 10.x 用の新しいライセンスが必要です。10.x のリージョンに 9.x の CDNS クラスタが含まれている場合は、9.x の CDNS ライセンスをリージョン サーバに追加する必要があります (9.x の CDNS クラスタが 9.x のライセンスを使用し、10.x の CDNS クラスタが 10.x のライセンスを使用します)。

ライセンスの詳細については、「*Cisco Prime Network Registrar 10.1* インストール ガイド」の「ライセンス ファイル」の項を参照してください。

Cisco Prime Network Registrar 10.1 キットには、次のファイルとディレクトリが含まれています。

- Linux : CentOS/Red Hat Linux ES 6.5 以降、6.x または 7.x のインストール キット
- Windows : Windows Server 2012 R2 インストール キット



- (注) Cisco Prime Network Registrar 10.1 は、Windows をサポートする最新のリリースです。また、重大度 1 の問題を除き、Windows には 9.x または 10.x リリース (パッチまたはメンテナンスを含む) がありません。

- ドキュメント：ポインタカード、バグ、および拡張リスト

Cisco Prime Network Registrar は仮想アプライアンスとして出荷されることもあります。これには、CentOS 7.7 オペレーティングシステムとともに、Cisco Prime Network Registrar で使用可能なすべての機能が含まれています。Cisco Prime Network Registrar 仮想アプライアンスは、VMware ESXi 6.x プラットフォーム、KVM ハイパーバイザ、および OpenStack でサポートされます。詳細については、「Cisco Prime Network Registrar 10.1 インストールガイド」の「Cisco Prime Network Registrar 仮想アプライアンス」の項を参照してください。

ライセンス

Cisco Prime Network Registrar 10.1 ライセンスファイルには、ライセンスの永続部分およびサブスクリプション部分に対応する 2 組のライセンスが含まれています。永続ライセンスは、8.x および 9.x バージョンで発行されたライセンスに似ています。Cisco Prime Network Registrar 10.1 の場合、ライセンスは必要なサービスに従って実行されます。詳細については、「ライセンスファイル」の項 *Cisco Prime Network Registrar 10.1 インストールガイド* を参照してください。



- (注) ファイルからロードされた個々のライセンスを削除することはできません。必要に応じて、アップグレード後に古いバージョンの DNS および DHCP ライセンスを削除することができます。サーバがアップグレードされていない場合は、古いバージョンの CDNS ライセンスを保持する必要があります。

相互運用性

Cisco Prime Network Registrar 10.1 個々のコンポーネント ライセンスを使用します。これにより、ユーザは DHCP サービス、権威 DNS サービス、および DNS サービスのキャッシュを個別に、またはスイートとして購入し、インストールできます。

DD バンドルを注文したお客様は、DNS 権限のあるライセンスを取得するときに、DNS キャッシュを 1 つ取得できます。DNS キャッシュはサーバベースのライセンスであるため、追加の DNS キャッシュ ライセンスが必要な場合は、サーバ数に基づいて注文します。

DHCP、DNS、および DNS キャッシュのライセンスをインストールして管理するには、リージョンサーバを確立する必要があります。リージョンサーバを使用して、これらのコンポーネントのライセンスをインストール、カウント、および管理します。

バージョン 10.1 とそれ以前のバージョンのローカル クラスタ間の同期は、10.1 リージョン クラスタで行う必要があります。Cisco Prime Network Registrar 10.1 プロトコルサーバはバージョン 8.3 以降で相互運用できます。

新機能および拡張

ここでは、Cisco Prime Network Registrar 10.1で追加された機能について説明します。

- [柔軟なリース時間](#) (4 ページ)
- [レート制限のキャッシュ](#) (4 ページ)
- [スマート キャッシュのサポート](#) (4 ページ)
- [キャッシング DNS のパケット ロギング](#) (5 ページ)
- [ケースのランダム化からの除外](#) (5 ページ)
- [再帰クエリのブロック](#) (5 ページ)
- [CAA リソース レコードのサポート](#) (5 ページ)
- [URI リソース レコードのサポート](#) (5 ページ)

柔軟なリース時間

特定のネットワークセグメントの番号を再設定したり、設定の変更を迅速に有効にしたりする必要があることから、ネットワークの再設定が必要になる場合があります。通常、これは、変更前にクライアントのリース時間を短縮し、変更を適用してからリース時間を元の値に戻すことによって実行されます。つまり、更新時間を比較的短期間（メンテナンス期間）に圧縮し、それらを展開してサーバの負荷を減らしながら戻す必要があります。これらの手順は手動で行うため、エラーが発生しやすくなります。Cisco Prime Network Registrar 10.1 では、このプロセスを自動化してメンテナンス期間中およびその前後の DHCP サーバの更新負荷を軽減しています。詳細については、「*Cisco Prime Network Registrar 10.1 DHCP ユーザ ガイド*」の「柔軟なリース時間」の項を参照してください。

レート制限のキャッシュ

Cisco Prime Network Registrar 10.1 ではレート制限をサポートしています。これにより、少数のクライアントによって DNS サーバが過負荷になるのを防ぐことができます。また、権威 DNS サーバに対するアップストリームクエリ攻撃からも保護します。レート制限機能によって、一部の DDoS 攻撃を軽減し、サーバが少数のクライアントによって過負荷になるのを防ぐことができます。この機能により、悪意のあるトラフィックを制限することができます。詳細については、「*Cisco Prime Network Registrar 10.1 権威およびキャッシング DNS ユーザ ガイド*」の「レート制限のキャッシュ管理」の項を参照してください。

スマート キャッシュのサポート

権威 DNS サーバが停止したり、その他の理由でオフラインになったりすると、影響を受ける可能性の低いインターネットサービスにアクセスできるという問題が発生する可能性があります。Cisco Prime Network Registrar 10.1 にはスマート キャッシュに対するサポートが含まれています。これにより、キャッシュ DNS サーバが、権威ネーム サーバに到達できない場合でも期

限切れのデータ（最新の既知の応答）を引き続き使用できるようになります。キャッシュ DNS サーバは引き続き権威ネーム サーバに接続し、ネーム サーバが再び機能すると、期限切れのデータを更新します。詳細については、の「スマート キャッシュの有効化」の項 *Cisco Prime Network Registrar 10.1* 権威およびキャッシング DNS ユーザ ガイドを参照してください。

キャッシング DNS のパケット ロギング

Cisco Prime Network Registrar 10.1 では、キャッシング DNS サーバのパケット ロギングをサポートすることで、キャッシング DNS サーバ アクティビティの分析とデバッグを行えるようにしています。パケット ロギングの設定によって、パケット ロギングのタイプ（概要または詳細）、ログに記録されたパケットのタイプ、およびメッセージが記録されるログファイルが決まります。詳細については、「*Cisco Prime Network Registrar 10.1* 権威およびキャッシング DNS ユーザ ガイド」の「パケット ロギングの有効化」の項を参照してください。

ケースのランダム化からの除外

Cisco Prime Network Registrar ではアップストリーム クエリのランダム化をサポートしていますが、ランダム化されたケースを維持しないネーム サーバがいくつかあります。したがって、ケースのランダム化をイネーブルにすると、有効なネーム サーバをブロックする可能性があります。*Cisco Prime Network Registrar 10.1* の *randomize-query-case-exclusion* 属性を使用すると、除外リストを作成できます。これにより、ケースのランダム化を引き続き使用できますが、選択したネーム サーバは除外され、有効な回答で応答を続行します。詳細については、「*Cisco Prime Network Registrar 10.1* 権威およびキャッシング DNS ユーザ ガイド」の「リゾルバ設定の指定」の項を参照してください。

再帰クエリのブロック

Cisco Prime Network Registrar 10.1 では、再帰クエリのブロックをサポートしています。これにより、サーバはこれらのクエリを処理しようとしてリソースを消費することがなくなります。再帰クエリのドロップ (*drop-recursive-queries*) 属性によって、RD フラグをオンにするクエリを DNS サーバが受け入れるか、またはドロップするかを制御します。この属性がイネーブルになっている場合、再帰クエリはサーバによってドロップされます。詳細については、「*Cisco Prime Network Registrar 10.1* 権威およびキャッシング DNS ユーザ ガイド」の「権威サーバからの再帰クエリのブロック」の項を参照してください。

CAA リソース レコードのサポート

Cisco Prime Network Registrar 10.1 は、認証局認証 (CAA) リソース レコード タイプをサポートしています。詳細については、「*Cisco Prime Network Registrar 10.1* 権威およびキャッシング DNS ユーザ ガイド」の「DNS の認証局認証 (CAA) リソース レコード」の項を参照してください。

URI リソース レコードのサポート

Cisco Prime Network Registrar 10.1 は、Uniform Resource Identifier (URI) リソース レコード タイプをサポートしています。詳細については、「*Cisco Prime Network Registrar 10.1* 権威および

キャッシング DNS ユーザ ガイド」の「Uniform Resource Identifier (URI) リソース レコード」の項を参照してください。

コマンドライン インターフェースの機能強化

CLI で次のコマンドが追加されたか、属性が変更されました。詳細については、「Cisco Prime Network Registrar 10.1 CLI リファレンス ガイド」を参照してください。

新しいコマンド

CLI では、次のコマンドが追加されています。

- **cdns-rate-limit** : DNS キャッシング サーバで DNS レート制限を制御および設定します。
- **dhcp-maintenance-windo** : DHCP メンテナンス期間を設定します。

変更されたコマンド

次のコマンドに対して、新しい属性が追加されたか、定義が変更されました。

- **expert** : expert mode コマンド
 - 次のコマンドを削除しました。
ccm sync-to-dhcp [FailoverPair]
 - 次のコマンドが追加されました。
cdns execute flush-ns-cache ip-address | all : すべてまたは特定のネーム サーバに関する情報をドロップします。
cdns execute dump-ns-cache filename : remote-ns-cache のコンテンツを指定されたファイルにダンプします。
cdns execute flush-negative : 存在しないドメインまたは空のドメインに関する情報をドロップします。
- **cdns** : DNS キャッシング サーバを設定および制御します。
 - **getStats** コマンドが次のように更新されました。
cdns getStats [<server | top-names | rate-limit | all> [total | sample]]
 - **rate-limiting=11** フラグが **activity-summary-settings** 属性に追加されました。
 - 次の属性が追加されました。
packet-log-settings、**packet-logging**、**packet-logging-file**、**randomize-query-case**、**randomize-query-case-exclusion**、**smart-cache**、**smart-cache-expiration**、**smart-cache-expiration-reset**
 - **remote-ns-host-ttl** 属性の説明が更新されました。

- **ccm** : CCM サーバを設定および制御します。
 - **bscp-request-detail=11** フラグおよび **scp-response-detail=12** フラグが **log-settings** 属性に追加されました。
 - **scp-request-detail** 属性と **scp-response-detail** 属性が追加されました。
- **dhcp** : DHCP サーバを設定および制御します。
 - 次のコマンドが追加されました。
dhcp getRenewalData [max-buckets]
 - 次の属性が追加されました。
distribute-renewals、**distribute-renewals-bucket-interval**、**distribute-renewals-max-renewal-time**
- **dns** : DNS サーバを設定および制御します。
 - **drop-recursive-queries** 属性が追加されました。
 - **edns-max-payload** 属性のデフォルト値が **1232** に更新されました。
- **failover-pair** : DHCP フェールオーバー関係を設定します。
rebind-limit 属性が追加されました。
- **lease** : DHCP lease オブジェクトを管理します。
 - **renewal-tracked=25** フラグが **client-flags** 属性に追加されました。
 - **lease-rebinding-time** 属性が追加されました。
- **lease6** : DHCP lease6 オブジェクトを管理します。
renewal-tracked=11 フラグが **client-flags** 属性に追加されました。
- **link** : DHCPv6 で使用する IPv6 ネットワーク リンクを設定します。
maintenance 属性が追加されました。
- **prefix** : DHCPv6 で使用する IPv6 ネットワーク プレフィックスを設定します。
maintenance 属性が追加されました。
- **resource** : リソース制限を設定し、リソースの表示とリセットを許可します。
 - **rr-count-critical-level** 属性のデフォルト値が **25000000** に更新されました。
 - **rr-count-warning-level** 属性のデフォルト値が **20000000** に更新されました。
 - **zone-count-critical-level** 属性のデフォルト値が **10000** に更新されました。
 - **zone-count-warning-level** 属性のデフォルト値が **8000** に更新されました。

- **scope** : スコープのプロパティを指定します。
maintenance 属性が追加されました。
- **task** : スケジュールされたタスクを設定します。
sync-mod 属性が追加されました。

SDK の互換性に関する考慮事項

次のメソッドが追加されています。

- **clearDHCPMaintenance** : スコープやプレフィックス/リンクに対する DHCP メンテナンス属性をクリアします。
- **getDHCPRenewalData** : DHCP 更新データを取得します。
- **getSessionSource** : オプションのセッション ソース情報を取得します (設定されている場合)。
- **newSessionFromCluster** : 指定した CCMCluster ScpObj からのクレデンシャルを使用して新しいセッション オブジェクトを取得し、リモート サーバ接続を確立します。
- **setSessionSource** : ログイン用として CCM でログに記録されるオプションのセッション ソース情報を設定します。

Cisco Prime Network Registrar のバグ

特定のバグの詳細について、または Cisco Prime Network Registrar の特定のリリースのすべてのバグを検索する方法については、「[バグ検索ツールの使用 \(10 ページ\)](#)」を参照してください。

ここでは、次の内容について説明します。

- [解決済みのバグ \(8 ページ\)](#)
- [拡張機能 \(9 ページ\)](#)
- [未解決のバグ \(10 ページ\)](#)
- [バグ検索ツールの使用 \(10 ページ\)](#)

解決済みのバグ

次の表に、Cisco Prime Network Registrar 10.1 リリースで解決されたバグを示します。

表 1: 解決済みのバグ *Cisco Prime Network Registrar 10.1*

不具合 ID	説明
CSCvn20662	Cisco Prime Network Registrar のサービス妨害における脆弱性

不具合 ID	説明
CSCvo79126	SNMP サーバがディセーブルになっていると起動できない
CSCvo92859	バックアップ ディレクトリがアクセスに対して保護されていない
CSCvq63314	アップグレード時にクラスタの製品バージョンが更新されないことがある
CSCvr89032	ADNS にゾーンなしの名前付きビューがある場合に、ZD 同期の実装が正しく行われない
CSCvs08424	リージョンで HA ペアへのビューが誤って自動伝搬される
CSCvs12145	ロック テーブルが DB 操作中に使用可能なロック数を超過している

このリリースのバグの完全なリストについては、製品ダウンロードサイトで入手可能な **cpnr_10_1_buglist.pdf** ファイルを参照してください。お客様が報告した問題の修正については、特にこのリストを参照してください。

拡張機能

次の表に、Cisco Prime Network Registrar 10.1 リリースで追加された主な拡張機能を示します。

表 2: 追加された拡張機能 *Cisco Prime Network Registrar 10.1*

不具合 ID	説明
CSCuo78019	GUIに同期タスク オプションを追加して、[更新 (Update)]および[抽出 (Exact)]同期タイプを選択します
CSCuv64947	DHCPv6 情報を DHCP アドレスの現在の使用率ダッシュボードチャートへ追加します
CSCuz94099	標準の RHEL/CentOS ライブラリ パッケージを使用します
CSCvn37524	OptionDefinitionSet のオプション リスト AttrDescArray にアクセスします
CSCvp19912	DHCPv6 の更新に対するロード バランシングを拡張します
CSCvp49553	着信 SCP 接続に対する送信元情報レポートを改善します
CSCvp59909	柔軟なリリース時間の各機能を実装します
CSCvq73812	IETF/IANA によって割り当てられた最新のオプションの定義を追加します
CSCvq75405	local.superusers 処理を改善します
CSCvr15221	DnsSec キーのデフォルト アルゴリズムを RSA/SHA-256 に変更します

不具合 ID	説明
CSCvr39515	2 バイト長の sztp リダイレクト オプション (RFC8572) をサポートします

このリリースで追加された拡張機能の完全なリストについては、製品ダウンロードサイトで入手可能な [cpnr_10_1_enhancements.pdf](#) ファイルを参照してください。

未解決のバグ

次の表に、Cisco Prime Network Registrar 10.1 リリースで未解決になっているバグを示します。

表 3: Cisco Prime Network Registrar 10.1 で未解決のバグ

不具合 ID	説明
CSCvs44967	setup.exe が他のディレクトリから呼び出された場合にキースタアのパスワードが暗号化されない
CSCvs46662	リージョンが AMD プロセッサのサーバにインストールされている場合、ライセンスキーの node-count がゼロになる

バグ検索ツールの使用

リリースの特定のバグまたはすべてのバグを検索するには、バグ検索ツールを使用します。

手順

ステップ 1 <http://tools.cisco.com/bugsearch> にアクセスします。

ステップ 2 [ログイン (Log In)] 画面で、登録済みの Cisco.com ユーザ名およびパスワードを入力し、[ログイン (Log In)] をクリックします。[バグ検索 (Bug Search)] ページが開きます。

(注) Cisco.com のユーザ名とパスワードを持っていない場合、<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do> で登録できます。

ステップ 3 特定のバグを検索するには、[検索対象 (Search For)] フィールドにバグ ID を入力し、**Return** キーを押します。

ステップ 4 最新リリースのバグを検索するには、[バグを検索 (Search Bugs)] タブをクリックし、次の基準を指定します。

- [検索対象 (Search For)] フィールドに、**Prime Network Registrar 10.1** と入力し、**Return** キーを押します (その他のフィールドは空のままにします)。
- 検索結果が表示されたら、フィルタツールを使用して検索するバグの種類を特定します。ステータス、重大度、変更日付などでバグを検索できます。



(注) 結果をスプレッドシートにエクスポートするには、[スプレッドシートにすべてをエクスポート (Export All to Spreadsheet)]リンクをクリックします。

特記事項

ここには、本ソフトウェアリリースに関する重要な情報と、最近のお客様からのクエリに対する回答が含まれています。次の内容について説明しています。

- [Linux OS のシステム要件 \(11 ページ\)](#)
- [IP フラグメンテーションのリスク低減 \(12 ページ\)](#)
- [local.superusers ファイルの処理 \(12 ページ\)](#)
- [バックアップディレクトリ保護 \(12 ページ\)](#)
- [SCP 接続レポート \(13 ページ\)](#)

Linux OS のシステム要件

Cisco Prime Network Registrar 10.1 以降、Red Hat Enterprise Linux または CentOS に Cisco Prime Network Registrar をインストールするには、Java ランタイムの他に次の x86_64 (64 ビット) パッケージをインストールする必要があります。

表 4: インストールするパッケージ

パッケージ名	パッケージのバージョン
OpenLDAP	2.4
OpenSSL	1.0
libstdc++	4.x
libgcc	4.x
zlib	1.x
krb5-libs	1.x

インストーラによって、インストールプロセスを開始する前に欠落している可能性があるパッケージを報告します。

IP フラグメンテーションのリスク低減

IP フラグメンテーションは、特に大規模な DNS メッセージが発生した場合に、インターネット上で問題となります。フラグメンテーションが動作している場合でも、DNS に十分なセキュリティが確保されていない可能性があります。これらの問題は、次のいずれかの方法で修正できます。a) EDNS バッファ サイズを低く設定して、IP フラグメンテーションのリスクを軽減する、b) DNS 応答が大きすぎて制限したバッファ サイズでは修正できない場合、DNS を UDP から TCP に切り替える。キャッシュ DNS サーバと権威 DNS サーバの両方でデフォルトの EDNS バッファ サイズが 4096 バイトの場合は、値を小さく（1232 バイト）することで IP フラグメンテーションを防ぐことができます。

EDNS バッファ サイズを設定するには、次のコマンドを使用します。

権威 DNS サーバ：

```
nrcmd> session set visibility=3
nrcmd> dns set edns-max-payload=1232
nrcmd> dns reload
```

キャッシュ DNS サーバ：

```
nrcmd> session set visibility=3
nrcmd> cdns set edns-buffer-size=1232
nrcmd> cdns set max-udp-size=1232
nrcmd> cdns reload
```

local.superusers ファイルの処理

local.superusers ファイルを使用する場合は、ファイル内のすべてのユーザに「local \$」というプレフィックスを付ける必要があります。詳細については、「Cisco Prime Network Registrar 10.1 アドミニストレーションガイド」の「管理者の管理」の項を参照してください。

バックアップ ディレクトリ保護

シャドウ バックアップ ユーティリティによってバックアップ ディレクトリが作成されると、所有者のみがアクセスできるように、そのバックアップ ディレクトリが保護されるようになります。ただし、これはディレクトリを作成する場合にのみ実行されます。ディレクトリがすでに存在している場合は実行されません。アップグレードする場合は、保護の内容について確認し、適宜調整してください。

次に例を示します。

- その他の（世界の）アクセスを削除するには、次のコマンドを使用します。

```
chmod o-rwx /var/nwreg2/local/data.bak
```

- グループ アクセスを削除するには、次のコマンドを使用します。

```
chmod g-rwx /var/nwreg2/local/data.bak
```

SCP 接続レポート

Cisco Prime Network Registrar 10.1 では、SCP クライアントにより接続に関する追加情報が提供されています（使用可能な場合）。また、SCP クライアントでは次のことが可能です。

- 着信 HTTP/HTTPS 接続の送信元アドレスとポート（web UI および REST セッションの場合）。
- 受信した CLI、ツール、または SDK セッションの送信元アドレス、ポート、およびユーザ情報。使用可能な場合は、開始側のユーザの SSH 接続用アドレスとポートも指定できます（これは、ユーザの SSH_CONNECTION 環境変数に基づいています）。
- ほかにも次のような役に立つインジケータがあります。
 - ローカルクラスタとリージョンクラスタ間の CCM 接続に対する「Regional-to-local management」または「Local-to-regional management」。
 - ローカルクラスタ間のフェールオーバー、HA 同期、またはその他の CCM 間接続に対する「Local-to-local management」。
 - サーバを識別するサーバ関連の接続（および場合によっては追加の詳細情報）については、<および>で囲まれたその他の ID。



(注) この情報はクライアントによって CCM に提供されるため、スプーフィングの対象となる可能性があります。情報として扱う必要があるため権限はありません。

詳細については、「Cisco Prime Network Registrar 10.1 アドミニストレーションガイド」の「アクティブ ユーザ セッション」セクションおよび「セッションイベントのログ」の項を参照してください。

関連資料

Cisco Prime Network Registrar 10.1 ガイドのリストについては、『[Cisco Prime Network Registrar Documentation Overview](#)』を参照してください。

Cisco Prime Network Registrar 10.1 のアクセシビリティ機能

すべての製品マニュアルは、イメージ、グラフィック、および一部のチャートを除き、アクセシブルになっています。音声、点字、または大きな文字の製品マニュアルが必要な場合は、accessibility@cisco.com にお問い合わせください。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手、Cisco Bug Search Tool (BST) の使用、サービス リクエストの送信、追加情報の収集の詳細については、『[What's New in Cisco Product Documentation](#)』を参照してください。

新しく作成された、または改訂されたシスコのテクニカルコンテンツをお手元で直接受信するには、『*What's New in Cisco Product Documentation*』RSS フィードをご購読ください。RSS フィードは無料のサービスです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

© 2019 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.